

私の原風景「山形・稲ぐいの立つ秋景色」

千葉市立大椎小学校教頭 升川 光博

今年度、4月に大椎小に着任いたしました升川（ますかわ）です。早いもので、着任当時の田起こし、田植えの時期から稲刈り収穫、新米のおいしい時となりました。この間、いろいろな場面で保護者の皆様や、地域の皆様とのかかわり、ふれあいがありお世話になりましたこと感謝申し上げます。YPPの方には4月当初より、学校に訪ねて来ていただきました。谷津田にかける熱い思いをお聞きするにつけ、自分のふるさとを思い出すよいきっかけになりました。

ところで私は、東北の山形県に生まれ育ちました。蔵王や出羽三山を眺め、最上川で釣りや川遊びをし、稲刈り後の田んぼで野球をして過ごしました。実家は、父は教員、祖父・祖母は農業を営んでいる、いわゆる「三ちゃん農業」でした。私が幼い時の思い出の一つに、祖父が運転する耕運機に乗って田んぼに向かい、手伝いをしながら田んぼで遊んでいるものがあります。

その中で、何歳の頃かは忘れましたが、鎌を使って稲刈りもした記憶があります。今なら鎌は危ないから「触るな」「そんなんじゃ手を切る、足を切るからやめろ」と言われ終わっていたでしょう。稲を刈ったら、直径10cmくらいの束にしていきます。今度はその稲束を干す作業です。そこで登場するのが、「（いなぐい）」です。記憶では約3mくらいの木の棒で、田んぼに倒れないように打ち込みます。その稲杭を真ん中にして、稲束を左右から挟み込みます。次の稲束は90度ずらしてかけていきます。これを繰り返し次々に稲束を積み上げていくのです。最後には立派な「稲ツリー」ができあがります。私の仕事は、稲束を祖父に渡すことです。これを「稲つだし（いなつだし）」と呼んでいました。「つだす」とは方言で、相手に物を渡すとか、差し出すというような意味です。タイミングよく2本の束を渡していくのはなかなか大変だし、難しかったと思います。さらに上の方になっていくと脚立に乗っている祖父に稲束を投げることとなります。この稲つだしは、小学生になってからの思い出かなと思います。

秋の広々とした田んぼに立つたくさんの「稲杭」の「稲ツリー」を想像してください。何百、何千の稲杭が規則正しく立つ風景を夕焼けの中で見ている40年前の自分を思い返すと、懐かしさがこみ上げてきます。私は何と豊かな時間を過ごしてきたんだろうと嬉しくなると同時に、郷愁の念もわいてきました。

振り返れば、私は子ども会や、地域の方々の世話になりながら、地域の子どもの成長してきたと今更ながらに思っています。YPPの方々とのかかわりの中に時折懐かしさを感じることがあります。時代も地域も違いますが、人と人とのかかわりを大切にしたい人情味あふれる方々がたくさんいらっしゃるからだと感じております。この原稿を書くチャンスを与えてくださったYPPの方々に感謝しつつ筆を置きます。



稲杭



稲杭の風景（農水省フォトエッセイより）

野鳥の“混群(こんぐん)”のはなし

千葉市緑区 高山 邦明

米づくりが終わり、冬を迎えた谷津では畦草が枯れ、落葉樹は葉を落とし、トンボやチョウ、バッタなど虫たちの姿も見られなくなり、殺風景なイメージを抱く方が多いと思います。でも、実は谷津の冬はいろいろな野鳥たちでにぎわう季節です。

冬の鳥というと、ツグミやカシラダカのようにはるばる大陸からやって来る渡り鳥が代表選手ですが、日本の国内でも北から南へ、あるいは高い山から平地へと暖かさを求めて移動する鳥がいます。こういう鳥は漂鳥(ひょうちょう)と呼ばれ、アオジやルリビタキがその仲間です。一方、一年中、谷津に留まって暮らしている鳥(留鳥:りゅうちょう)はいつも同じ暮らし方をしているかということ、冬になるとちょっとおもしろい群れを作る仲間がいます。

谷津を取り囲む林は木々が葉を落とし、冬場は明るくて見通しがよくなります。そんな林を散策していると、急に鳥たちのにぎやかな鳴き声に取り囲まれることがあります。耳をすましてじっと聞くと鳥の声が1種類ではないことに気づくことでしょう。そう、複数の種類の鳥が集まって群れを作っているのです。このような群れを混群(こんぐん)と呼びます。

下大和田や小山での混群の中心メンバーはシジュウカラとエナガ、メジロです。胸にネクタイ模様のあるシジュウカラはツッチー、ツーツーチーとにぎやかに鳴きながら枝から枝へ、時に地面に下りて忙しく餌を探します。体がとても小さいエナガはツリリリ、ジュルリと小さな声を発しながら枝や幹の間をせわしなく飛び移り、時には枝にぶらさがる曲芸を見せてくれることもあります。白いアイリングがかわいらしいメジロはチーッというその体に似合わない鋭い声を出しながら忙しく動き回ります。小さなキツツキのコゲラがギー、ギーと鳴きながら、また、茶褐色の体が目立つヤマガラがニーニー、ツイッ、ツイッと鼻声を出しながら混群に加わることもあります。



エナガ(12月の下大和田にて)

混群は林の中を動き回っているのだから、散策していると急ににぎやかになったり、急に静かになったりを繰り返します。枝を落とした林では夏場よりも鳥の姿を見つけやすくなりますから、野鳥の名前を覚えるとてもいいチャンスです。ただ、混群を作る仲間は動きが速い小鳥ばかりなので、双眼鏡でじっくり観察するのは難しいかもしれません。そんな時は図鑑に出ている鳥の写真や絵で、野鳥の特徴を覚えておくと便利です。シジュウカラのネクタイ、エナガの長い尻尾、メジロの“うぐいす色”やアイリング、ヤマガラの色、コゲラの幹へのとまり方などを知っているとちょっと見ただけで名前がわかるようになります。また、最初はちょっと難しいかもしれませんが、鳴き声を覚えると耳をすまただけで何種類の鳥がいるのかわかるので、ぜひ挑戦してみてください。

春から夏は種類ごとや一つの種類の鳥でもカップルごとに分かれて、時にお互いに威嚇しあいながら暮らしていた野鳥が、冬になるとなぜ混群を作るのでしょうか？

いろいろな説があるようですが、一つには群れを作った方が敵が現れた時に気づきやすくなるようです。1羽、2羽より、数が多い方が目の数が増える分だけ警戒しやすいということです。タカなどが現れ、たとえばシジュウカラがツーツーツーツーという鋭い声を発するとエナガなど他の鳥が一斉に茂みに身を隠すのが観察されています。警戒ではないのですが、人の方から群れに近づくとシジュウカラがチッチュピー、ジャラジャラジャラと鳴いて、出て行くよう威嚇されます。

また、目が多くなることによって食べ物を見つけやすくなるというメリットもあるようです。場合によっては力の強い鳥が弱い鳥の後を追って、餌を横取りすることもあるみたいですが。一方で混群に加わっている鳥はそれぞれ違う食べ方をしうまく住み分けしているという説もあります。木の上の方、下の方、枝の先、幹の周り、硬い木の実など、それぞれ好みがあります。混群に出会ったらそれぞれの鳥がどのような行動をしているのか、よく観察してみてください。

一見、静かに見える冬の谷津の林ですが、寒さに負けず元気に暮らしている鳥たちの姿があります。暖かい格好をして、双眼鏡と図鑑を手にはぜひ、谷津に出かけてみてください。



里山たんけんレポート

第 154 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2012年11月4日(日) 晴れ

セイタカアワダチソウは色が褪せ始めヨシ、オギの穂も乱れて谷津は秋深い様相を呈していました。天候にも恵まれてこの時期にしてはたくさんの蝶やトンボなど生きものが出現してくれました。今回も、生きもの大好き少年が参加、きょうの目的はハラビロカマキリとのこと。オオカマキリ、コカマキリには目もくれず、ひたすらハラビロカマキリを探していましたが、なんと持ち歩いていてフィールドスコープに飛んで来てとまりゲット、大喜びでした。早速、エンマコオロギを捕まえありあわせのビンと一緒にいれたところすぐに食べ始めたのには驚きました。アカトンボはいるにはいるのですがほとんどがマユタテアカネとノシメトンボでナツアカネは少なく、アキアカネ、コノシメトンボは見られませんでした。やはりアキアカネは危機的な状態に減っているのでしょうか、気懸りです。一方、オオアイトトンボは林縁にたくさん発生していて小さな子どもさんも素手で捕らえて楽しんでいました。田んぼに生えているヤナギタデ(ホンタデ、「蓼食う蟲も好き好き」、「刺身のつま」、「タデ酢」のタデ)の葉やサンショウの実、自生する日本のハッカなどの香りや味を楽しみながら谷津を巡りました。アオジの声が草叢からたくさん聞こえましたが姿は見せてくれません。スタート場所に戻ってきてやっとモズをスコープで捕らえてみんなでじっくり見ることが出来ました。アオジが順調に渡ってきているようなのでこれから渡ってくる冬鳥期待できそうです。

(参加者 大人7名、高校生4名、子ども4名； 報告：網代春男)

番外編 下大和田 YPP「古代米の脱穀」

2012年11月10日(土) 晴れ

10/27に刈った緑米と赤米の稲を脱穀しました。良い天気が続いて稲がしっかり乾いていたので、モミの稲離れが良く、脱穀機の調子も良かったので、作業がどんどん進み、午前中のうちに脱穀を終わらせることができました。稲を掛けていたオダを片付けると田んぼが広々と感じられ、今年の米づくりが終わったという実感がわいてきます。午後は草刈りのお手伝いをした地元の方の休耕田の枯れ草を燃やしました。

(参加者 大人17名、子ども9名； 報告：高山邦明)

第 140 回 下大和田 YPP「もみすり」

2012年11月17日(土) 雨

朝からあいにくの雨となってしまいましたが、農政センターの倉庫の軒下をお借りしてモミすりをすることができました。モミすりしたのは、今年、下大和田で収穫したコシヒカリ、農林一号、黒米、赤米、緑米。粃殻が取れたきれいなお米がモミすり機から出てくるとうれしくなります。真っ黒な黒米はひとしおです。ノギの長い赤米は粃すり機に引っかかるのでいつも苦勞するのですが、うまくコツを見つけて順調にモミすりできました。

(参加者 大人17名、子ども9名； 報告：高山邦明)

今年の収穫を手にみんな笑顔 (撮影：田中正彦) →



第 87 回 小山町 YPP「古代米の脱穀」

2012年11月25日(日) 晴れ

赤米と緑米の脱穀をしました。小山では足踏み式の脱穀機を使って昔ながらの方法での脱穀。ガーコン、ガーコン、脱穀機の声が谷津に響きます。エンジンを使った機械にはかないませんが、それでもどんどん脱穀できる仕組みに昔の人の知恵のすごさを感じます。モミに混じった藁クズを取り除くにはこちらでも昔ながらの唐箕(とうみ)を使いました。朝は一面に霜が下りるほどとても冷え込んだのですが、暖かな日差しに恵まれて気持ちよい作業でした。

(参加者：大人7名； 報告：高山邦明)



←唐箕(とうみ)でゴミを吹き飛ばします。



足踏み式脱穀機を使っでの作業

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月15日 ノスリが上空を巡回していた(齊藤)。
11月18日 耕作放棄田が広がる枝谷津の日だまりにナツアカネ、コノシメトンボなどが集まっていた。オオアイトトンボも多数見られた。田んぼでたくさんのメダカが泳いでいた(高山)。
11月25日 早朝、冷え込んで一面、霜に覆われていたが、日中、暖かくなると田んぼにマユタテアカネが舞っていた(高山)。

下大和田

- 11月10日 林縁でヒミズの死骸を見つけた(網代)。ツグミの声を聞く(高山)。
11月30日 山のフジの古木に見事なヒラタケ(食用)がたくさん出ている。下大和田のきのこもかなり高い値の放射能が検出された。山取りのものは当分食べない方が良さそう(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第141回 下大和田 YPP「収穫祭」・第142回「どんど焼きと昔あそび」

今年最後のイベントはお楽しみの収穫祭です。田んぼで育てたお米を臼と杵を使ってもちつきをします。そして、年明け最初のイベントは恒例のどんど焼きと昔あそびです。新年への思いを語り合いながら楽しく過ごしましょう。

- 日時: 収穫祭 2012年12月15日(土) 10:00~14:00
どんど焼き 2013年1月13日(日) 10:00~14:00 いずれも小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)
持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、収穫祭ではお皿・お椀・はし、どんど焼きの時は、昔あそびの道具、どんど焼きで燃やしたいものなど。
参加費: 収穫祭 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です)、小学生未満無料
どんど焼き ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第156回 下大和田 1月の谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥との出会いを期待して谷津田を巡ります。どんど焼きとの同時開催ですので双方をお楽しみください。

- 日時: 2013年1月13日(日) 観察10~11時 *小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)
持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第88回 小山町 YPP「唐箕(とうみ)かけ」

脱穀したお米を唐箕(とうみ)にかけてわらくズを飛ばしてきれいにします。時間があれば、畦の補修など田んぼの手入れもしたいと思います。

- 日時: 2012年12月16日(日) 10:00~12:30、小雨決行
場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター

編集後記 いよいよ今年も残すところあとわずかとなりました。残暑から急に涼しくなったおかげで、今年には里山の紅葉がとてもきれいでしたが、落ち葉の季節となり、モノトーンの風景が広がる本格的な冬を迎えます。でも、“野鳥の混群のはなし”に書きましたように冬の谷津は鳥たちの楽園、野鳥の観察をするには絶好の季節です。おなじみの冬鳥たちも揃ったようで、観察や写真撮影が楽しみです。(高山 邦明)